

論壇

国債への需要圧力強く

年が明けてからの世界の金融市場は、リスクオフ一色だ。リスクオフというのは金融市場関係者がよく使う言葉だが、ようするに市場の多くの参加者がリスクから逃げようとする状況である。

中国をはじめとする新興国の通貨、石油などの資源、そして日本をはじめとする主要国の株式。これらのリスクがすべて大きいと見なされている。そうしたリスク資産を売って、安全資産に逃げこもうとするのだ。安全資産とは、米

国や日本など主要国の国債である。その結果、日本の10年物国債は、0・2%前後という極端に低い水準まで下がってしまった。政策金利を上げた米国でも、10年物の国債の利回りは2%前後と非常に低い状況だ。金利がここまで下がるほどに、国債に対する需要の圧力は強いのだ。金融市場ではこう

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

リスクオフ一色の金融市場

市場が動いているときには、市場の流れに逆らわずに買への逃避に追従した方がよい。市場関係者の多くがそう考えているので、リスクオフの状態が続いているのだ。問題はこうした状態がずっと続くのかどうかということだ。市場もいずれば過剰なリスクオフを見

た動きを質への逃避(フライ・トゥー・ザ・クオリティ)と直すことになるだろう。市場関係者との会話で時々驚くことがある。私たち経済学者は、通常は3カ月程度までを短期、3年以上を長期と呼んで分析を行う。当面の金利や物価の動きは短期の問題であり、少子高齢化が経済成長に及ぼす影響などは長期の

問題である。短期の問題と長期の問題を区別して考えることは重要なところだ。ところが、ある市場関係者の発言は衝撃的だった。市場では20分以上はすべて長期だ、というのが、多少誇張はあるだろうが、ようするに市場では目先の動きに追いついていくことが重要で、明日以降のことは当面考えないというような意味だろう。市場の特徴をよく言い表している発言だと思う。信じられないスピード

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。